

これからの教育のあり方について

大山町教育審議会が答申



肥後会長（写真右）から答申を受け取る小原委員長

大山町教育審議会は、「これからの大山町教育のあり方について」の諮問を受け、昨年1月以来、大学教授、学校関係者、保護者、町民など20人の委員により審議を重ねてきました。このほど、答申がまとまりましたので概要をお知らせします。

幼児教育

「これからの保育所のあり方」

1. 現状と課題

- 出生数は減少しているが、保育所児童数はほぼ横ばいであり、低年齢児の入所希望が増加している。定員を上回る保育所がある一方で、定員を大きく下回る保育所もある。
- 施設の老朽化、保育室やトイレの不足、駐車場が狭いことによる園児送迎時の支障など、保育所それぞれに施設面の課題がある。
- 保育所入所の乳児の増加、特別支援が必要な児童の増加、早朝・延長保育への対応などにより、保育士の配置が困難になっている。
- 緊縮財政の中で、職員の増員や施設の大規模な改修などが困難な状況である。

2. 審議のまとめ

- (1) 定員に満たない保育所のある中山・名和地区の保育所は、適正規模となるよう統合する。具体的な再編計画を早急に作成すること。
- (2) 定員を超える状況が続くことが予想される大山地区の保育所は、増築または改築を行うことも視野に入れて早急に対策を検討すること。
- (3) 早朝保育、延長保育、乳児保育などの特別保育の拠点化を検討すること。
- (4) 就学前教育の重要性を考え、保育所の統合に併せて幼稚園の設置を検討すること。
- (5) 効率的な財政運営の観点から、保育所の民間委託も視野に入れて保育所運営方針を検討すること。

3. おわりに

これからの保育所運営は、保育所の効率的な運営を図りながら、保護者や地域住民はもとより町民の理解を得るよう留意し、大山町の子どもたちが心豊かにたくましく育つ体制を構築することが重要である。

また、大山町の幼児教育が、「大山町子ども教育振興計画」や「子ども教育プログラム」に基づいて、さらに充実されることを期待する。

答申全文については、大山町教育委員会事務局、町内の各公民館で閲覧することができますし、大山町ホームページからも見るすることができます。また、この答申の内容について広く町民のみなさんからのご意見を募集します。左記のあて先に必ず文書（郵送、FAX、メールなど）でご提出ください。様式は問いませんが、住所・氏名をご記入ください。